

地域医療連携室 だより

Vol.15


 宮城県立がんセンター


がんセンター看護部の役割を再考して

看護部長 我妻 代志子

この度の東日本大震災から早7か月が経過しました。季節は梅の頃からコスモスの時となり、沿岸部でも復興の兆しを感じられるようになってまいりました。復興に向けて長い道のりになりそうですが「これから」に期待し、一日も早く平穏な日々にと願うばかりです。

さて、平成23年4月から県立3病院は地方独立行政法人に運営形態を変え、がんセンターにおいても社会情勢に適応すべくがん専門病院としての使命を担っていくことになりました。2006年に「がん対策基本法」が策定され、2008年には「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が定められております。指針の中の指定要件には、集学的治療及び緩和ケアを提供する診療体制、カンサーボードの設置・化学療法のレジメン審査等々が示され、また専門的な知識及び技術を有する医師やコメディカルスタッフの専従あるいは専任の配置など、がん医療を担う人材の体制の強化が必須となっております。

そのような中で、看護の果たす役割も大きく、さらに看護の専門性を追求していく必要性を実感しております。あらためて当センターの看護部が果たすべき役割について再考してみました。

1 がん看護力の向上

がん看護における実践能力が向上するために現任教育プログラム（クリティカルラダー）に基づき教育を実施しております。今年度はさらに臨床実践能力とキャリアニーズに応えられるプログラムに整備し、提供したいがん看護が実践できるように整備していく予定です。現在、がん看護専門看護師1名、認定看護師6名（感染管理、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、がん放射線療法看護、皮膚・排泄ケア）が各分野で活動を行っていますが、院内だけでなく地域における活動（地域デビュー）も検討し、がん看護における知識や技術の普及をはかりたいと考えております。

2 がん看護における専門性の発揮

がん患者の全人的な苦痛に対して、看護の専門性をさらに活かせる場として「がん看護外来」の開設を検討していきます。がん治療が外来で継続する（できる）患者の増加に伴い外来看護の重要性や新しい外来看護の発想を考え、特に外来化学療法、スキンケア、リンパ浮腫、栄養・嚥下など、がん患者にみられる症状緩和に向けた看護の力での専門外来を検討してまいります。

3 地域がん診療連携拠点病院との看護部間の連携

県内には7箇所都道府県および地域がん診療連携拠点病院があります。相談支援センターや地域連携などではそれぞれ交流があると思われます。‘看護部門’間においても情報交換や連携などができるとさらに拠点病院としての機能の充実や連携の推進の一助になりうるのではないかと考え発進源になればと考えております。

～がん看護を誇りに思える看護部でありたい～

をモットーに、地域医療を担っている皆様とのネットワークをさらに強化し、看護部一同努力してまいりますので、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 専門・認定看護師の紹介 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

がん看護専門看護師

松田 芳美



専門看護師は、看護師や医療チームメンバーからの相談に応じ、患者さんご家族に直接ケアする場合と、相談者の力を引き出しながら、実践を支えて教育する間接的な関わりという大きな特徴があります。

相談内容には、がん治療の過程で生じるさまざまな悩みや不安に対する精神的ケア、治療選択や療養場所の意思決定支援などがあります。さらに、教育活動として院内外での講演等を通しがん看護の質向上を目指しております。

がん化学療法看護認定看護師

高子 利美



がん化学療法を受ける患者さんが確実・安全・安楽に治療が継続できるように努めております。近年では多種多様な副作用を呈する新規抗がん剤が開発されており病棟・外来看護師共に連携をとり患者さんのセルフケアの支援や、副作用症状が出現したときには症状のマネジメントを行っております。がん治療においては、ご家族を含めての情報の提供や心理的なサポートがとても大切であると常に考えております。

当院では1人であり外来化学療法室に専任で従事しておりますが、実践・指導・相談という認定看護師の役割を担うべく要請があれば病棟にも赴いて対応しております。

がん性疼痛看護認定看護師

早坂 利恵



がんの痛みは診断時に約30%、進行がんでは約70%の人が体験すると言われております。痛みにより治療の継続が困難であったり、食欲低下、不眠、不安等心理面、社会面、スピリチュアル面にも影響し生活の質を著しく低下させるため、痛みを緩和することはとても重要になります。

現在は、緩和ケア病棟、緩和ケアチームにおいて患者さんやご家族の生活の質をより高めることができるよう支援しています。

感染管理認定看護師

菊地 義弘



私たちの体や環境には多くの微生物が存在しております。健康であれば感染症を起こしませんが、何らかの原因で抵抗力が低下した状態や、点滴や手術などの医療行為は感染を起こす機会となります。

感染管理は、こうした院内での医療関連感染を防ぐことは勿論、院内に感染を持ち込まないよう地域での感染制御も大切な要素となります。

微生物への視点、組織や地域への視点、それぞれを組み合わせ、当センターを利用して下さる皆様が、感染を起こさず安全な医療・看護が受けられるよう努力しております。

皮膚・排泄ケア認定看護師

鈴木 藤子
斎藤 知江



看護の基本であるスキンケアや排泄への援助を専門的な技術や知識をもってケアに関わることを目標にしています。「創傷ケア」では褥瘡発生予防と治癒を目指したケア、「失禁ケア」では皮膚トラブルを生じやすい方へのスキンケアや失禁（便や尿のもれ）に伴い生じる問題に対してのケアを実践しています。

「ストーマケア」ではストーマを造設された患者さんが社会に戻り、自分なりの生活が再構築されるよう、ストーマ装具交換方法や、皮膚の観察をはじめとしたセルフケアができるよう術前から社会復帰まで継続したケアを行っております。当院では2名の皮膚排泄ケア認定看護師が1人は専従として、1人は病棟勤務をしながら活動しています。外来と病棟の連携を密にとりながらより良い社会復帰を目指した援助を行っております。

がん放射線療法看護認定看護師

熊谷 直美



放射線治療効果を最大限に得る為に、放射線療法の治療過程で生じる患者さんの身体、心理、社会的問題の解決を支援し、長期にわたる治療を患者さんが主体的に継続しながら完遂できるよう専門的知識と技術でサポートしていきます。

看護師のさらなる放射線療法看護の質の向上や、患者さんやご家族、一般の方々にも放射線療法についての理解を深めてもらえることを目指して活動しています。

くわしくはこちらを参照下さい

<http://www.miyagi-pho.jp/htdocs/kango/ninteis.html>

がん地域連携クリティカルパスのご紹介



がん対策基本法が目指しております「地域における切れ目のない医療」の実現に向け、当院ではがん地域連携クリティカルパス（がん地域連携パス）の準備を進めてまいりましたが、一年の試行期間を終え、本年10月よりパスを用いた地域連携を本格的に開始しておりますのでご紹介させていただきます。試行期間中には皆様方から多数のご意見やご協力をいただきましたことを厚く御礼を申し上げますとともに、今後県内7つのがん診療連携拠点病院※（拠点病院）が共同で使用する共有パスとして皆様のお目に触れることもあるかと存じますのでよろしくお願いいたします。

1. がん地域連携パスの目的

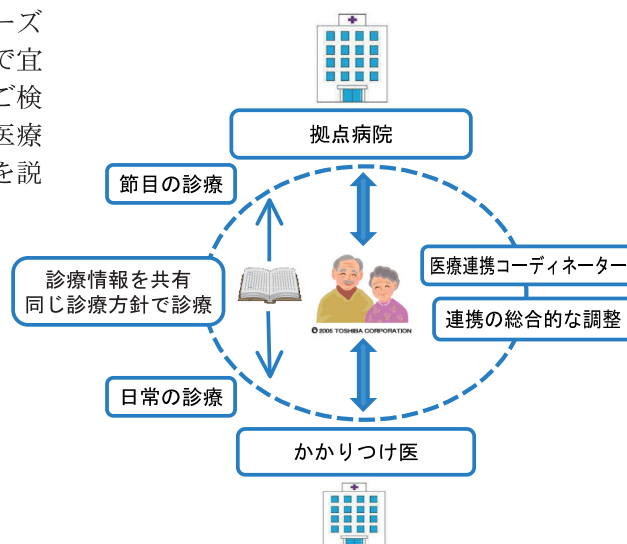
連携中のがん診療の安全と質の保証を図ることがこのパスの目的です。当院の担当医と地域の「かかりつけ医」がパスを通じて密に連携することにより、患者さんの診療計画が両者で共有され、安全で質の高いフォローアップが可能となります。また、患者さんに「私のカルテ」という手帳を持って頂くことによって、ご自身の状態や治療経過がいつでも確認できるようになります。

2. 連携医療機関（「かかりつけ医」）の登録

過日、当院よりご案内しましたががん地域連携パスへの参加をお尋ねする意向調査でご賛同頂きました連携医療機関様は、当院の連携先として既に東北厚生局に届け出を済ましておりますが、診療報酬の算定には連携医療機関様の届け出も必要となりますのでご注意ください。当院と連携医療機関様双方の東北厚生局への届け出が済んでおりますと患者さんが希望された際にはスムーズに連携が図られ、診療報酬の算定も可能となりますので宜しくお願いいたします。なお、新たに当院との連携をご検討されている医療機関様がおられましたら当院の地域医療連携室にご連絡ください。届け出の方法やパスの詳細を説明させていただきます。

3. 対象疾患と対象患者について

	診療内容	進行度	担当科
胃がん	術後フォローアップ	Stage I A	外科
大腸がん	術後フォローアップ	Stage I, II	外科
乳がん	術後フォローアップ	内分泌療法	外科(乳腺科)
肺がん	術後フォローアップ	Stage I A	呼吸器外科
肝臓がん	TAE, PEIT, FBA集学的治療など	経過観察例	消化器科



4. 診療報酬算定について

がん地域連携パスに係る診療報酬は、拠点病院を中心に作成されたパスに沿った医療機関の連携により、「地域における切れ目のない医療」が患者様に提供されることを評価したものです。当院などの拠点病院は初回の退院時に一回に限り「がん治療連携計画策定料」（750点）が算定できます。連携医療機関様はパスに示しております診療計画表に沿って診療を行いますと月一回に限り「がん治療連携指導料」（300点）が算定できます。ただし、患者さんの同意と診療毎に診療情報を文書で拠点病院に提供することが必要となります。

5. 当院での取り組みの現状

がん地域連携パスで連携する際の医療機関の決定にあたりましては患者さんの意向を最優先にしております。同時に紹介して頂きました医療機関や当院との連携の有無を参考に候補を選定し、選定後に連携医療機関に担当医から直接お電話で連携の可否をお尋ねしております。連携が可能な場合には地域医療連携室の担当者が連携先をご訪問させていただき、パスの内容を説明しております。

※宮城県のがん診療連携拠点病院は当院のほか東北大学病院、仙台医療センター、東北厚生年金病院、東北労災病院、大崎市民病院、石巻赤十字病院が指定されております。

外来新患診療体制表 平成23年11月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●			●	
	外科		●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●	●		●
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

宮城県立がんセンターセミナーのご案内

1月 第215回がんセンターセミナー

演題 NOとバレット食道(仮題)
 講師 遠藤 博之 先生
 宮城県立がんセンター研究所 がん幹細胞研究部 主任研究員
 日時 平成24年1月13日(金) 17時30分より

2月 第8回がんセンターフォーラム 特別講演

- 演題 大腸がん検診の現状と今後の課題
 講師 島田 剛延 先生
 宮城県対がん協会検診センター副所長
 日時 平成24年2月18日(土) 11時00分より
- 演題 がん患者さんとのコミュニケーション
 講師 川名 典子 先生
 杏林大学付属病院 看護部師長
 日時 平成24年2月18日(土) 16時00分より

※いずれも会場は、宮城県立がんセンター大会議室になります。どうぞお気軽にご参加下さい。



交通案内

J 桜交 仙台南 自家用車
 R 交通 至仙台
 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用(所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分～午後5時15分
- TEL (022) 381-5152(直通)
- (022) 384-3151(代) 内線115
- OFAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務課) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。